

今日の説教のポイント <マタイによる福音書 13 章 24~30 節>

①13 章は何がテーマ？ そこから考えると見えて来る！

先週は「種を蒔く人」のたとえ話でした。今日の箇所もやはり種蒔きが関係しています。この後もそうで、13 章は「天（神）の支配（天国の直訳）の広がり」と、最後の裁き（良い人と悪い人の選別）、二つのことを考えているように思えます。そのことが話をややこしくしています。すなわち、ちょっと読むと、最後の審判で裁かれることが印象に強く残りがちですが、本当にそれでいいのでしょうか？

②マルコとの違い。ただ「神の支配は広がる」ではないマタイ！

マルコ福音書と比較してみると、この所、マルコでは単純に神の国は広がっていくたとえです（マルコ 4:26-29）。マタイを読むと、「そう簡単じゃなく、色んなことが起こる」ことを考えさせられます。「だんなさま、畑には良い種をお蒔きになったのではありませんか」（27）と、僕たちは皮肉っぽい聞き方をしています。しかし、心配して「なんとかせねば」と思って「毒麦を抜きましょうか」と言う僕たちに、主人は意外な答えを返します。「いや、毒麦を集めるとき、麦まで一緒に抜くかもしれない。刈り入れまで、両方とも育つままにしておきなさい」（29-30）と。ここに、聖書の、意外で、恵み深い、イエス様の姿が一番現れています！ イエス様をお送り下さった神様がどういうお方であるかが現れています！ 神の支配は、人間が起こす色んな出来事で、広がり行き悩んでいるように見えるかもしれませんが、しかしそうではないのです！ 様の深い御旨を思わねばなりません。

③皆さんは自分のことを良い麦と毒麦のどちらだと思えますか？

昔、「教会は聖なる人間の集まりでなくてはならない」と主張したドナトゥスに、アウグスティヌスはこの毒麦のたとえを引き、「教会は正しい者ばかりの集団でないし、またそれでいいのだ」と主張しました。どちらが正しいかは神様の判断に委ねるべきことだからです。

歴史を辿ると、異端とされた人々の多くは正しさを真剣に追求した人々であったことが分かります。それ自体は尊い姿なのです。しかし、自分を良い麦と思って他者を裁き出した途端に毒麦になっているのかもしれませんが、謙虚に良い麦として成長して行きたいと思えます。